

エステティックの施術による身体への危害についての原因究明及び衛生管理に関する研究

主任研究者: 関東 裕美(公益財団法人日本エステティック研究財団理事長)

分担研究者: 鷺崎久美子(東邦大学医学部皮膚科学講座), 古川 福実(和歌山県立医科大学皮膚科学教室)

舘田 一博(東邦大学医学部微生物・感染症学講座)

1. 研究の背景

エステティックにおける施術は、消費者ニーズの高まりとともに普及している。一方で、エステティックには法的な規制がなく、実態が十分に把握されていないため、衛生管理や施術に関係する健康被害が懸念される。

2. 研究の目的

- ①エステティック施設の衛生管理の状況やエステティシャンの手洗いのあり方を把握し、衛生管理の充実のための方法を提案する。
- ②健康危害の実態やエステティックで行われる施術の内容を把握する。
- ③エステティックでの施術の安全性に関する検証を行う。健康被害を予防する対策を提案する。

3. 研究方法

①衛生管理の実態把握

I. エステティック施設の衛生環境実態調査

都内近郊の20エステティック施設を訪問し、施術室及び水回り設備等、1施設5～12か所をふき取り法による細菌培養検査を行った。また、訪問した施設に勤務する技術者(エステティシャン)の手洗い前後をハンドスタンプにて採取した。

II. 施術前後の技術者(エステティシャン)の手の状況

フェイシャルスキンケア施術(顔面のマッサージ)前後の技術者のハンドスタンプを採取した。

III. 全国のエステティック施設(1,780店)にアンケートを配布して、衛生管理の状態について調査した。

②健康被害の実態把握

I. 医療機関へのアンケート調査

日本美容皮膚科学会会員医師(1,779名)にアンケートを配布して、エステティックサロンで健康被害を受けた患者の症例を収集した。

II. 独立行政法人国民生活センター相談事例

国民生活センターに全国から寄せられる消費者相談のうち、「エステティック」カテゴリーに分類されている健康被害の詳細情報を収集した。

③エステティックで行われている施術の安全性の検証

I. 植物由来の香料成分の皮膚刺激性の検証

アロマオイルを化粧品と混合して施術に使用するケースがある事から、その皮膚刺激性を48時間閉塞パッチテストにより検証した。

① I エステティック施設の衛生環境実態調査

- 実施時期 平成25年8月～11月
- 訪問施設 「エステティックの衛生基準」を活用しているエステティック施設（都内近郊20施設）
- 調査内容 ふき取り法による細菌培養検査
施設に勤務する技術者の手洗い前後の
手指細菌検査

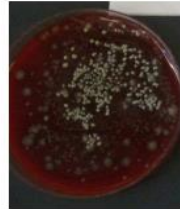
- ふき取り箇所

手洗い場	施術台
消毒スペース	スチーマー
トイレノブ	施術用機器
シャワー室	ロッカー

- 対象 院内感染などで弱毒菌であるのに問題となるような市中型メシチリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、多剤耐性緑膿菌、アシネトバクターなどを中心にサロン環境から検出されるかどうかの検査を行った。

① I エステティック施設の衛生環境実態調査

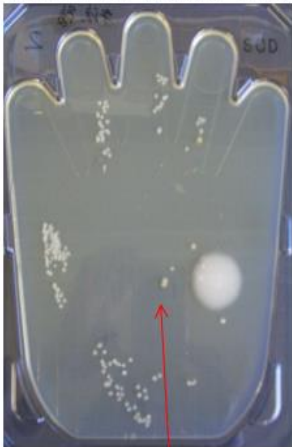
消毒用酸性水



Acinetobacter sp. 1×10^3 cfu/ml
Micrococcus sp. 1×10^3 cfu/ml
CNS 1×10^2 cfu/ml

酸性水製造装置
内およびホース内
部の清掃必要

施行直前(手洗い後)

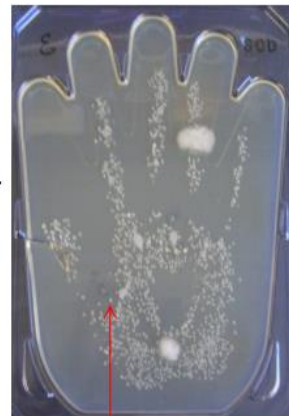


MRSA
(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)

-手指衛生-
施術



施行直後(手洗い前)



MRSA
(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)

施術前手洗い後の手指消毒不十分。
→顧客への耐性菌伝播の危険性

① I エステティック施設の衛生環境実態調査

問題点1.
手指消毒剤が
劣化しているお
それがある。

問題点2.
水回りの清掃を
徹底する必要が
ある。

①手洗い前



>500 コロニー
Bacillus sp.
Coagulase negative Staphylococci
Klebsiella pneumoniae
Stenotrophomonas maltophilia
Pseudomonas aeruginosa

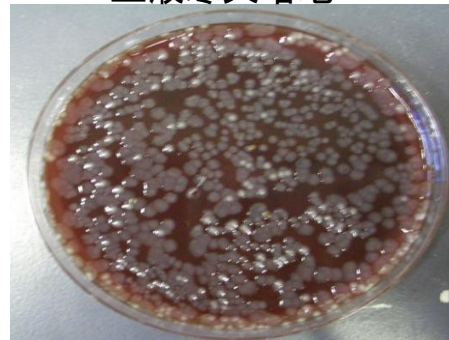
②手洗い後



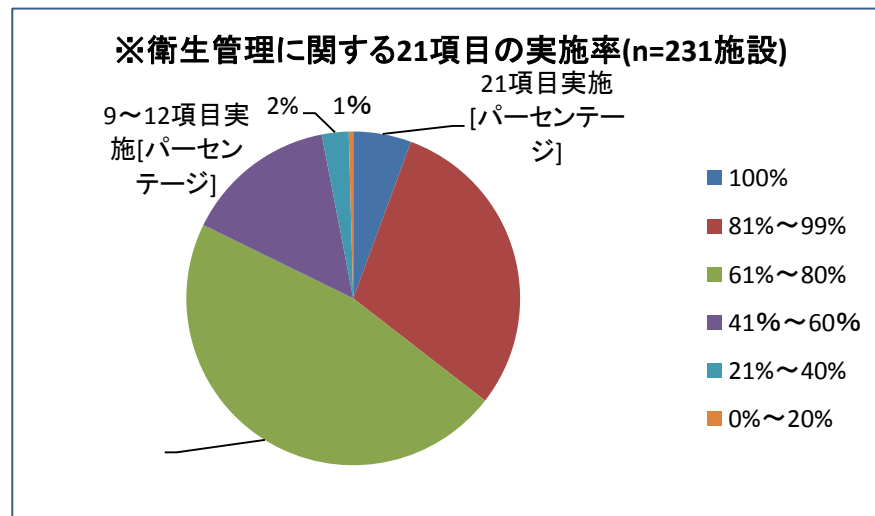
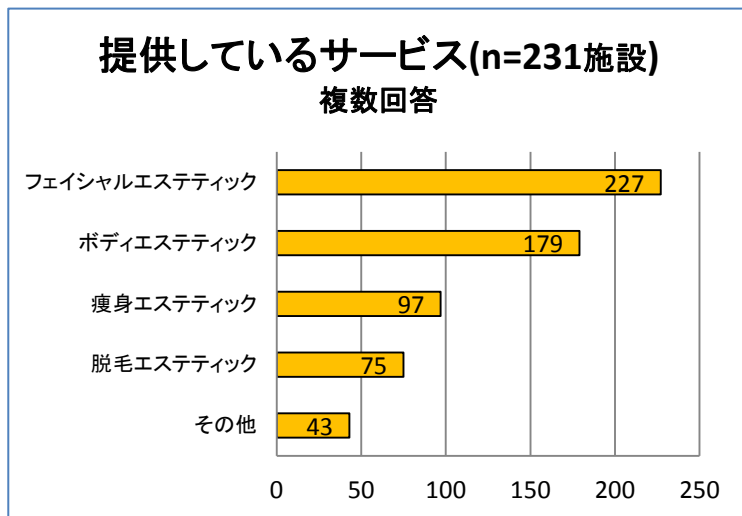
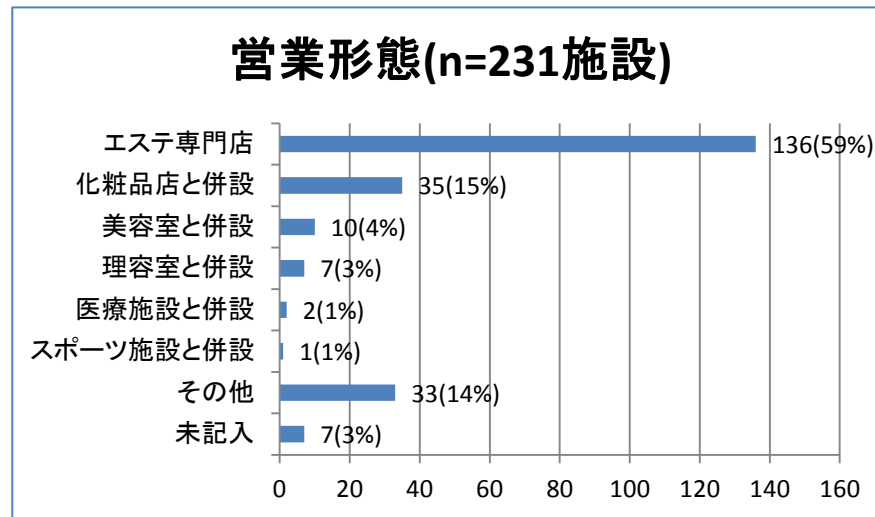
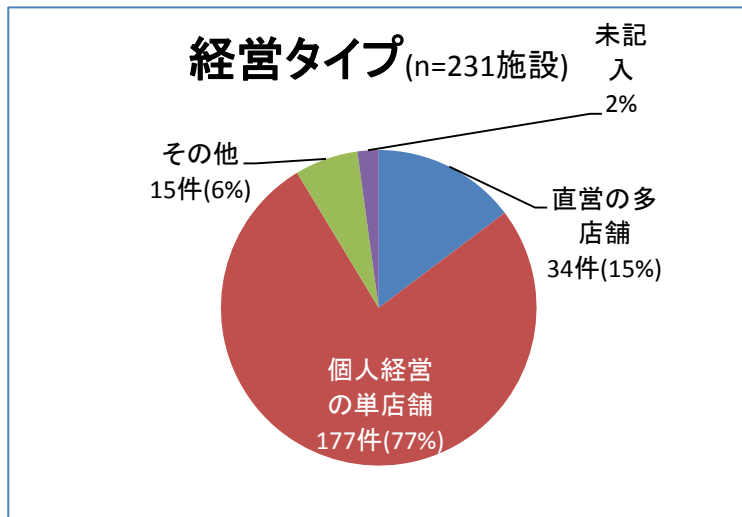
>500 コロニー
Bacillus sp.
Coagulase negative Staphylococci
Klebsiella pneumoniae
Klebsiella oxytoca
Acinetobacter sp.



-②施術室(手洗い場 下)
血液寒天培地



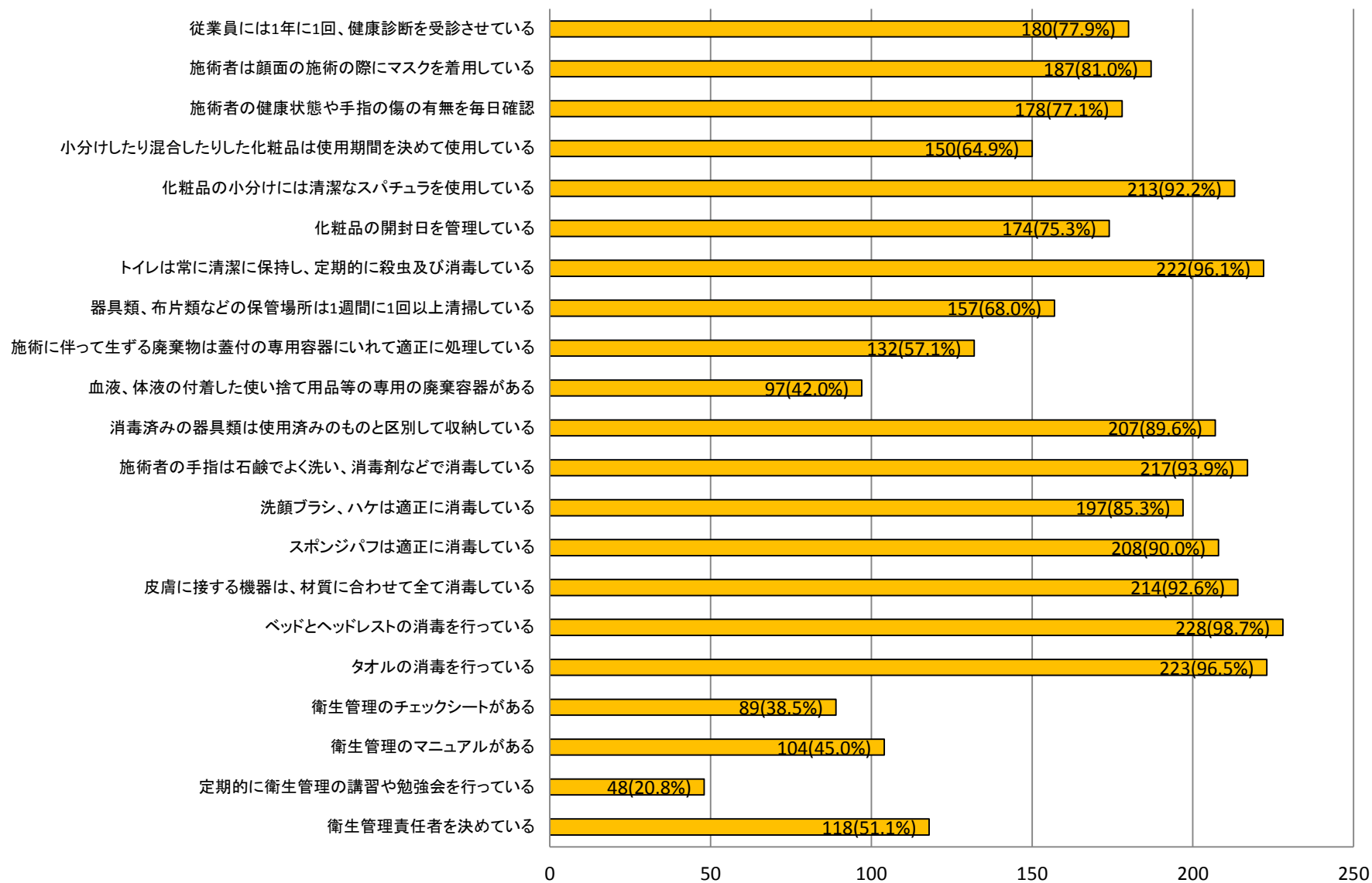
①Ⅱ 衛生管理実態把握(n=231施設)



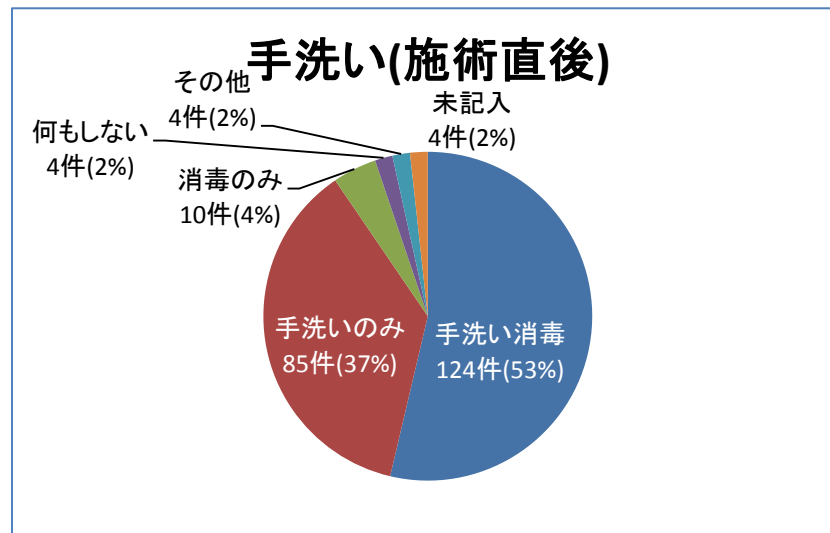
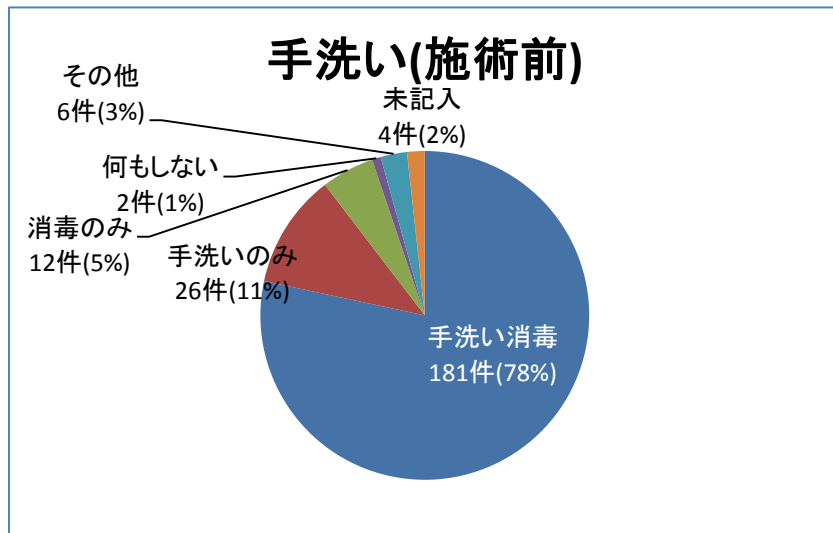
※「エステティックの衛生基準」に準拠して作成

①Ⅱ 衛生管理実態把握

衛生管理 実行している項目(n=231施設)



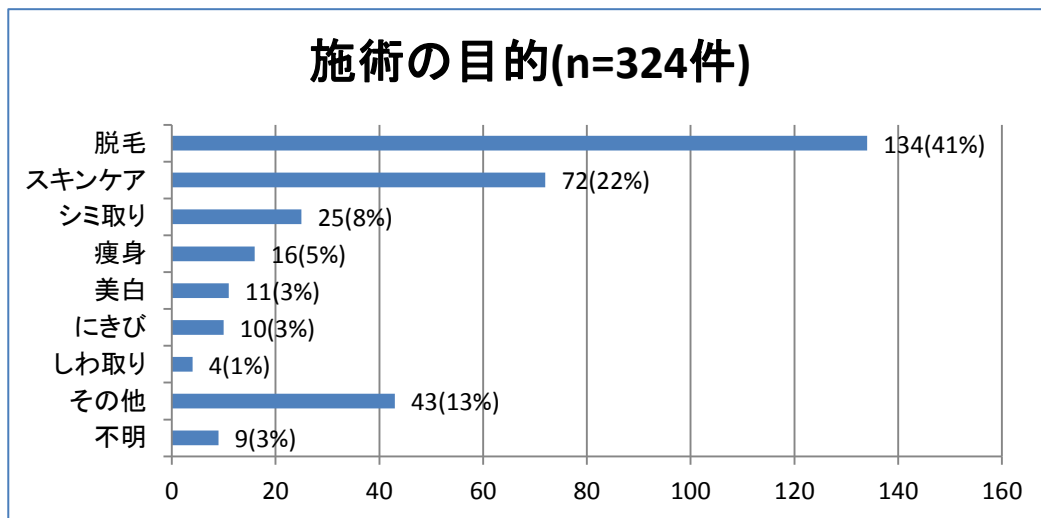
① II 衛生管理実態把握(n=231施設)



② I 医療機関へのアンケート調査(n=331施設)

健康被害の治療経験 無 183件(55%)

有 148件(45%)

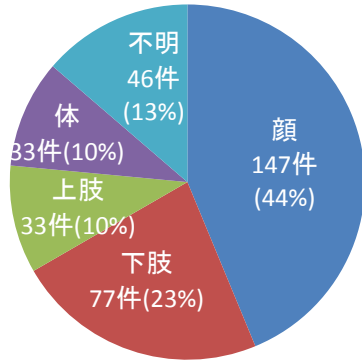


収集した症例数
324件(女性299件92%)

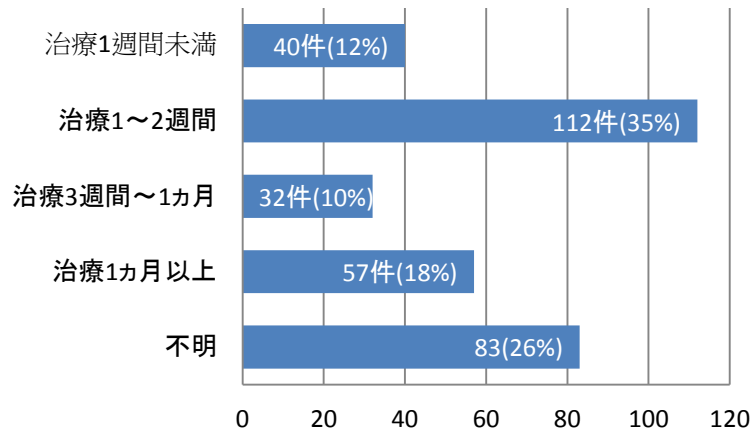
(20歳代 36%)
(30歳代 26%)
(40歳代 19%)

② I 医療機関へのアンケート調査(n=331施設)

部位(n=324件複数回答)



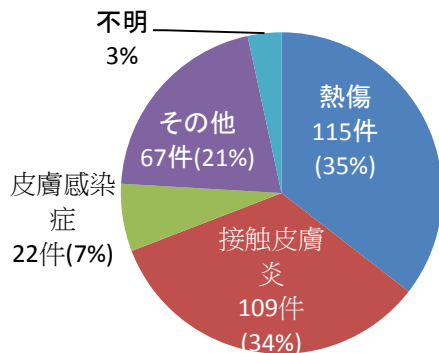
治療期間(n=324件)



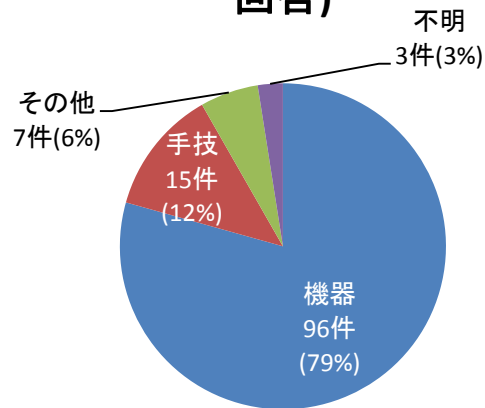
転帰(n=324件)

軽快	41%
治癒	40%
不変	4%
治療中止	2%
悪化	1%
不明	12%

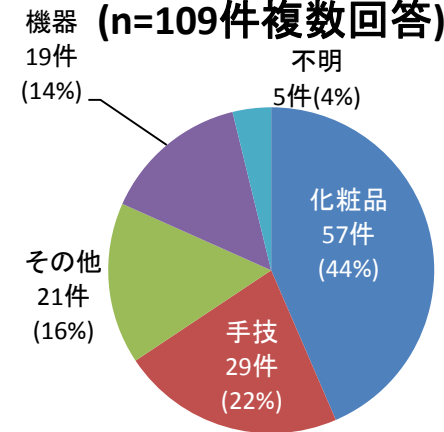
所見(n=324件)



熱傷の原因(n=115件複数回答)



接触皮膚炎の原因(n=109件複数回答)

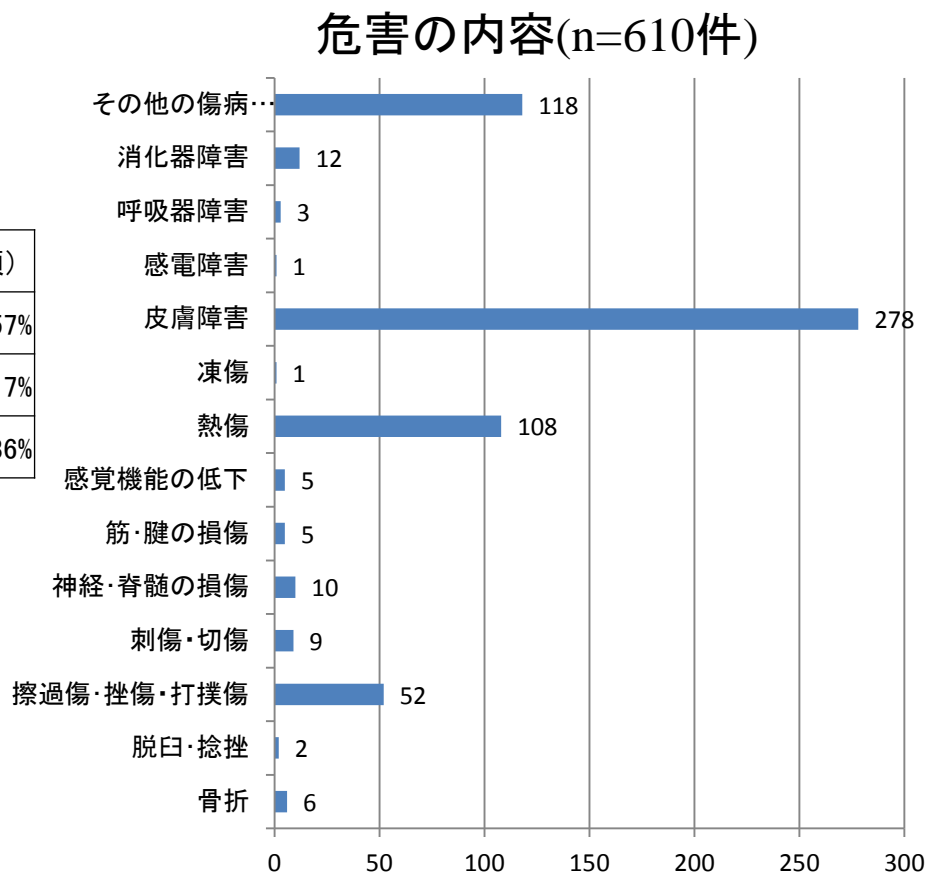
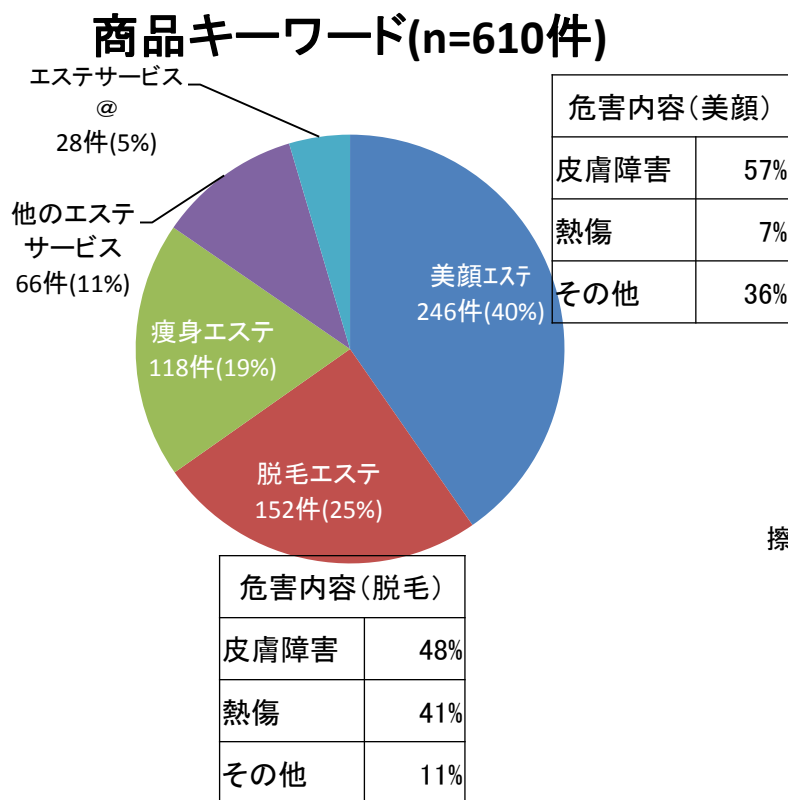


②Ⅱ 独立行政法人国民生活センター相談事例


国民生活センターのPI0-NETにおける全国危害危険情報（期間2011年4月～2012年3月）の資料より「エステティックサービス」に関連する内容等を抜粋。

概要については以下のとおり。

①相談総件数（期間2011年4月～2012年3月） 610件



③ I . 植物由来の香料成分の 皮膚刺激性の検証

本邦のパッチテスト香料アレルギー陽性率
の比較 

国	香料アレルギー陽性率(%)
日本	6.4
ドイツ	7.5~11.2
アメリカ	11.4
オーストラリア	6.2
イギリス	7.9
ギリシャ	8.1
ヨーロッパ(詳細不明)	7.5~8.3
韓国	9.7

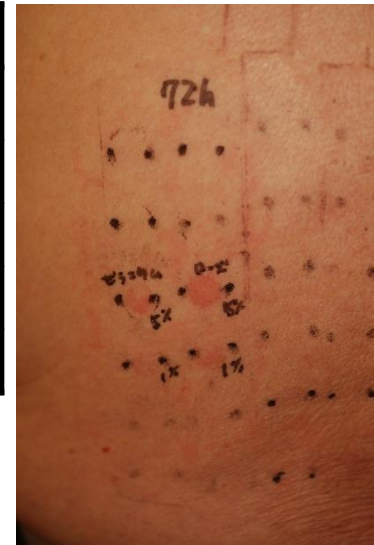
試験期間 平成25年10月1日～平成25年12月30日

試験実施施設 東邦大学医療センター大森病院 皮膚科

試料 エステティックの施術に使用されている主なもの10種類
(コントロール ワセリン)

NO.	試料名	試験濃度		番号	試料名	試験濃度	
		5%	1%			5%	1%
1	ラベンダー	5%	1%	6	カモミール	5%	1%
2	ゼラニウム	5%	1%	7	サイプレス	5%	1%
3	マジョリウム	5%	1%	8	ジュニパー	5%	1%
4	ローズマリー	5%	1%	9	フランキンセンス	5%	1%
5	ローズ	5%	1%	10	クラリセージ	5%	1%

被験者 40名(男性1名、女性39名 21歳～80歳 平均55.8歳)



4. 結果と考察

●衛生管理

エステティック施設の環境面のふき取り検査では、薬剤感性の黄色ブドウ球菌、緑膿菌、アシネトバクターは検出されるものの、当該の薬剤耐性菌による施設の汚染は見られなかった。しかし、直接顧客顔面に蒸気を当てる装置であるスチーマーの水入れ口が汚染されている施設が見うけられた。

技術者の手指細菌検査では、1施設の技術者の手指から市中型MRSAが検出された。多剤耐性緑膿菌及びアシネトバクターは検出されなかった。また、当該菌による汚染ではないが、市販手指消毒剤による消毒後手指であるにもかかわらず大量の菌で汚染されている例も見受けられた。この原因として手指消毒剤の劣化(消毒成分の希釈などによって環境菌による汚染等が発生)である可能性が考えられた。

●身体被害の実態把握及び原因の究明

昨年度までの研究で、国民生活センターに寄せられる消費者相談は、「皮膚障害」と「熱傷」が多いことが明らかになっていた。

今年度の研究で、医療機関へのアンケート調査により、皮膚障害は「化粧品」(44%)と「手技」(22%)、熱傷は「機器」(79%)を原因とすることが多かった。ただし、エステティック施設で使用される化粧品や機器は市販されておらず、エステティック施設の協力を得られない場合、正確な原因検索が出来ないとの意見が寄せられた。

化粧品については、施術の際、化粧品と混合して使用される植物由来の香料成分(いわゆるアロマオイル)についてパッチテストを行ったが、希釈濃度5%では問題となる刺激反応はなかった。